

き じ ご ゆうらんにつ き 紀の路御遊覧日記 1冊

江戸時代 ^{ぶんせい} 文政7(1824)年

和歌山県立文書館蔵

^{がんせん じ ぼくはん}
願泉寺ト半家第10代ト半
^{りょうしん}
了真が、親族、家来を引き連
^{き いのくに}
れて、紀伊国へ旅した道中
^{どうちゆう き}
を記録した道中記です。

^{ちょしゃ} ^{どんかいけん} ^{ごう}
著者は、「呑海軒」という号
^{えんゆう}
を持つ家来の一人で、「遠遊
^{ひ なみかきとめ}
の事なれハ、とまりとまりの日並書留よ」という
命令を受けて、この記録を作成しました。

旅の道中で書かれた記録のため、^{ざつぜん} 雑然とし
ていて^{とういつせい} 統一性のない部分もありますが、7日間
の旅の様子がかなり詳しく記録されています。
また、文学的意識の高い記録で、冒頭に^{かんぶん} 漢文
と和文で序が書かれているほか、一行が道中
で詠んだ和歌や^よ 漢詩、^{かん し} 俳諧もたくさん書き留
められています。

